

NPO「ひづるしい鎮玉」

外部に住む若者の視点で地域の魅力や課題を探り、活性化策を考えよう、浜松市北区引佐町鎮玉地区で地域活性化の取り組みを進めているNPO「ひづるしい鎮玉」は16日、地区を訪れている恵泉女学園大学(東京)の学生との意見交換会を同地区で開いた。

女性の提案で地元に活気を

北区引佐町

学生は、同大の高橋清貴准教授から「国際協力」について学んで、高橋准教授と同NPOの広瀬稔也さんがいるゼミ生。地元にある資源を探し出して地域や国を援助する方法を考える授業の一環で、高橋准教授と同NPOの広瀬稔也さんが

大学生と意見交換



地域の魅力や活性化策について意見を交わす学生と「ひづるしい鎮玉」のメンバー=浜松市北区引佐町

旧知の間柄であることから同地区を訪問した。

学生は15、16の両日、久留木の棚田やホタルの名所として知られる川べりなど町内の見どころを観察。NPOメンバーに見つけた魅力や課題を伝え、活性化策を提案した。

学生は「きれいな川や緑」「子供がたくさんいる」と魅力を挙げ、「ネットを使った情報発信」「女性目線で子供のための環境整備」など提案した。

NPOメンバーは「定住人口増加へ意見を参考にしたい」と話した。